



# 風船かずら

～花言葉「一緒に飛びたい」～



農福連携「特別講演会」

## 誰もがあたりまえに働いて生きていけるまち ～大地が人を育むめむろ農業～

北海道芽室町 前町長 宮西 義憲 さん

2月20日（水）、21日（木）今年度の農業ジョブトレーナー養成講座（上級）を開催しました。20日の第一講目は特別講演として北海道芽室町から宮西義憲前町長をお招きし、お話を伺いました。

芽室町の(株)九神ファームの取り組みについては、2016年11月に開催された農福連携サミットinみえの講演で株式会社ダックス四国の且田久美さんから報告がありましたが、今回は九神ファーム設立当時の町長であった宮西さんの思いをお話いただきました。

「町長の前職の教育長のとき、平日にも関わらず小学生の女兒が自転車をこいで図書館に通う姿を見かけました。不思議に思って教育委員会の職員に尋ねると『不登校の子です』とあっさりと言ったんです。障がいのため不登校で、何かすべきと思ったのが障がい者と関わり始めたきっかけです。教育関係者である職員が、障がいのある子が『不登校』だということを当たり前のように受け入れている現実に、ショックを受けました。」

その後、障がいを持つ児童が通う小学校に補助教員の配置・増員、町長に就任してからも、障がいのある子どもをサポートする子育て支援課を新設、役場での就労体験など、幅広い施策を実施してこられました。そして「この町で育った障がいのある子どもたちの働く場を作りたい」と、2013年4月町内初のA型事業所「九神ファーム」を9人の利用者と共に開所します。開所に至るまでには民間企業誘致など2年間の奔走がありました。そして9人の中にはあの図書館に通っていた女性もいたのです。今では障がい者手帳を返納し、一般就労についた若者も数人いるとのこと。北海道の最低賃金810円を上回る890円を払っている状況は、綿密な計画に基づいた民間企業との連携と、教育長・町長としての強い思いがあったからこそです。首長やリーダーが強い信念で取り組むことで町の状況は一変します。中野代表理事が冒頭の挨拶の中で「宮西さんの話こそ行政の方に聞いてもらいたい」という言葉には、障がいのある子どもたちや人たちに行政としてもっと寄り添っていただきたいという思いがありました。

詳しい内容はホームページ「ファームめむろ 設立の経緯」（特に「私たちの思い」）をご覧ください。宮西さんは講演の最後に「町長を退職する日、花束を渡してくれた女性がいた。『町長がいてくれたからこそ、今の自分がある』。その女性こそ、あの図書館に通っていた不登校の女性だった。」

思いのないところに取り組みは成就しない、人に寄り添うことの意味を実感した感動の時間となりました。



今後の日程 「農福連携フォーラム」 2019年3月8日（金）13:30～17:00 〈入場無料〉

会場：名古屋栄ガスビル キングホール 地下鉄「栄」駅徒歩5分 「矢場」駅徒歩2分

第一部 発表者：中野和代（代表理事） 中西則夫（農業ジョブトレーナー）

和田高（日本農福連携協会事務局長）

第二部 発表者：吉田行郷（農林水産政策研究所 首席政策研究調整官）

「農福連携の現状と課題 ～全国の取り組みから～」

※今年度の協議会の事業報告会はこのフォーラムで報告とします。

ご参加いただける会員様は、協議会までご連絡ください。（TEL 059-253-4187）



赤い羽根  
福祉基金